

## 講義要綱

<b>【授業科目名】</b> 人体の構造と機能Ⅲ(解剖学Ⅲ)	<b>【分野】</b> 専門基礎	<b>【学年】</b> 2年	<b>【学期】</b> 前・後期
<b>【学科】</b> 本科	<b>【講師名】</b> 佐藤 巖	<b>【授業コマ数】</b> 30	<b>【授業時間数】</b> 60
<b>【単位数】</b> 2			
<b>【一般目標:GIO】</b>			
<p>人体を構成する各器官系のうち、内臓系と感覚器系の構造と機能について理解する。はり師・きゅう師・あん摩マッサージ指圧師に必要な臨床との関連を明確にするため 生理学や体表解剖学についての関連性を把握し、人体の構造と機能についての解剖学的重要事項を整理し、国家試験に対応した知識を修得する。</p>			
<b>【行動目標・到達目標:SBOs】</b>			
<p>&lt;内臓系&gt; 内臓諸臓器の概論、構造と働きについて知識を修得する。消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌腺についての知識を修得する。</p> <p>&lt;感覚器系&gt; 感覚器系の機能と働きについて知識を修得する。視覚器、平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器、皮膚に關係する感覚器についての知識を修得する。</p>			
<b>【 授 業 計 画 】</b>			
《前期》		《後期》	
<p>内臓系</p> <p>呼吸器系</p> <p>1. 鼻腔・副鼻腔     &lt;テキスト第3章 1&gt;</p> <p>2. 咽頭・喉頭     &lt;テキスト第3章 2&gt;</p> <p>3. 気管と気管支 肺     &lt;テキスト第3章 3 4&gt;</p> <p>4. まとめ1     &lt;テキスト第3章 &gt;</p> <p>消化器系</p> <p>5. 消化管の基本構造     &lt;テキスト第4章 1&gt;</p> <p>6. 口腔1     &lt;テキスト第4章 2&gt;</p> <p>7. 口腔2     &lt;テキスト第4章 2&gt;</p> <p>8. 咽頭     &lt;テキスト第4章 3&gt;</p> <p>9. 食道 胃     &lt;テキスト第4章 4. 5&gt;</p> <p>10. 小腸     &lt;テキスト第4章 6&gt;</p> <p>11. 大腸     &lt;テキスト第4章 7&gt;</p> <p>12. 肝臓     &lt;テキスト第4章 8&gt;</p> <p>13. 胆嚢     &lt;テキスト第4章 8&gt;</p> <p>14. 膵臓・腹膜     &lt;テキスト第4章 8&gt;</p> <p>15. 試験問題の解説および総復習</p>	<p>泌尿器系</p> <p>1. 腎臓     &lt;テキスト第5章 1. &gt;</p> <p>2. 尿路     &lt;テキスト第5章 2. &gt;</p> <p>生殖器系</p> <p>3. 男性生殖器     &lt;テキスト第6章 1. &gt;</p> <p>4. 女性生殖器     &lt;テキスト第6章 2. &gt;</p> <p>5. 受精と発生     &lt;テキスト第6章 3. &gt;</p> <p>内分泌系</p> <p>6. 下垂体・松果体     &lt;テキスト第7章 1. 2. &gt;</p> <p>7. 甲状腺・上皮小体     &lt;テキスト第7章 3. 4. &gt;</p> <p>8. 副腎     &lt;テキスト第7章 5. &gt;</p> <p>9. 膵臓     &lt;テキスト第7章 6. &gt;</p> <p>10. 性腺     &lt;テキスト第7章 7. &gt;</p> <p>11. 視覚器     &lt;テキスト第9章 1. &gt;</p> <p>感覚器系</p> <p>12. 平衡聴覚器     &lt;テキスト第9章 2. &gt;</p> <p>13. 味覚器     &lt;テキスト第9章 3. &gt;</p> <p>14. 嗅覚器     &lt;テキスト第9章 4. &gt;</p> <p>15. 試験問題の解説および総復習</p>		
<b>【テキスト】</b>			
「解剖学」第2版 (社)東洋療法学校協会 編 河野邦雄 他著 医歯薬出版社			
<b>【成績評価方法】</b>			
所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
<b>【授業実施上の留意点】</b>			
授業は講義形式にて行う。教科書の通読を基本とし、教科書を通読・理解するにあたり必要な医学用語・知識を解説し、各疾患を理解する為の为抓手とする授業が目標とする。基礎医学に対する知識が必要となる為、知識に乏しいものはあらかじめ予習しておくこと。			

## 講義要綱

【授業科目名】人体の構造と機能Ⅳ(運動学)	【分野】専門基礎	【学年】2年	【学期】前後期
【学科】本科	【講師名】松村天裕	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動学の基礎の1つである、解剖学の筋系を理解する。</li> <li>・ 身体の運動を力学、身体各部の構造、機能から学習し、運動学的機能を理解する。</li> </ul>			
【行動目標・到達目標:SBOs】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 力学、解剖学、生理学等を応用し、運動学の基礎を理解、説明ができる。</li> <li>・ 身体各部位の運動学的機能から動作を理解することができる。</li> <li>・ 疾患と関連して考えることができる。</li> </ul>			
【 授 業 計 画 】			
<前 期>		<後 期>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関節の運動</li> <li>2. 上肢の靭帯</li> <li>3. 下肢の靭帯</li> <li>4. 上肢の筋 ①</li> <li>5. 上肢の筋 ②</li> <li>6. 上肢の筋 ③</li> <li>7. 上肢の筋 ④</li> <li>8. 体幹の筋 ①</li> <li>9. 体幹の筋 ②</li> <li>10. 体幹の筋 ③</li> <li>11. 下肢の筋 ①</li> <li>12. 下肢の筋 ②</li> <li>13. 下肢の筋 ③</li> <li>14. 下肢の筋 ④</li> <li>15. 試験解説</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関節運動と力学</li> <li>2. 姿 勢</li> <li>3. 伝導路、反射と随意運動 ①</li> <li>4. 伝導路、反射と随意運動 ②</li> <li>5. 体幹、脊柱の機能</li> <li>6. 正常歩行と異常歩行 ①</li> <li>7. 正常歩行と異常歩行 ②</li> <li>8. 肩甲帯、肩の機能 ①</li> <li>9. 肩甲帯、肩の機能 ②</li> <li>10. 肘、前腕の機能</li> <li>11. 手と手指の機能</li> <li>12. 骨盤と股関節の機能</li> <li>13. 膝関節の機能</li> <li>14. 足部の機能</li> <li>15. 試験解説</li> </ol>	
【テキスト】			
テキスト:「リハビリテーション医学 第4版」東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「解剖学 第2版」東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) その他:必要に応じてプリントを使用する。			
【成績評価方法】			
所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】			
特になし			

## 講義要綱

【授業科目名】人体の構造と機能Ⅵ(生理学Ⅱ)	【分野】専門基礎	【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】本科	【講師名】谷 直樹	【授業コマ数】30	【授業時間数】60 【単位数】2
<b>【一般目標:GIO】</b> 人体の80年以上に及ぶ生命活動を、その恒常性維持機能と共に説明でき、かつ次世代にどのように受け継がれるか、述べる事が出来る。また、次年度以降の恒常性維持機能の破綻である疾病に対する学習を控えて認知的領域および情意的領域におけるレディネスを獲得することが目標である。			
<b>【行動目標・到達目標:SBOs】</b> 生理学の定義を述べる事が出来る。 人体の恒常性に対する知識を述べる事が出来る。 人体の生命活動に対して医療倫理を踏まえた科学的な考察が出来る。 はり師・きゅう師およびあん摩マッサージ指圧師国家試験に対応した知識を述べる事が出来る。			
<b>【 授 業 計 画 】</b>			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 第8章 排泄(腎臓の構造と働き) 2. 第8章 排泄(尿の組成・腎臓による体液調節) 3. 第8章 排泄(蓄尿と排尿) 4. 第9章 内分泌(ホルモンの特徴) 5. 第9章 内分泌(各内分泌腺の働き①) 6. 第9章 内分泌(各内分泌腺の働き②) 7. 第10章 生殖・成長と老化 8. 第11章 神経(構造と働き・伝導と興奮①) 9. 第11章 神経(構造と働き・伝導と興奮②) 10. 第11章 神経(末梢神経) 11. 第11章 神経(中枢神経①) 12. 第11章 神経(中枢神経②) 13. 第11章 神経(中枢神経③) 14. 第11章 神経(中枢神経④) 15. 試験解説および総復習		1. 第12章 内臓の自律神経性調節(自律神経系の特徴) 2. 第12章 内臓の自律神経性調節(自律神経系の神経伝達物質と受容体) 3. 第12章 内臓の自律神経性調節(自律神経系の中枢・自律神経反射) 4. 第13章 筋(構造と働き・筋収縮の仕組み) 5. 第13章 筋(エネルギー供給・心筋平滑筋) 6. 第14章 運動(骨格筋の神経支配) 7. 第14章 運動(運動の調節①) 8. 第14章 運動(運動の調節②) 9. 第14章 運動(運動の調節③) 10. 第15章 感覚(体性感覚・内臓感覚) 11. 第15章 感覚(痛覚・特殊感覚) 12. 第16章 生体の防御機構(免疫・組織と因子) 13. 第16章 生体の防御機構(免疫反応の分類・炎症とアレルギー) 14. 第17章 ホメオスタシスと生体リズム 15. 試験解説および総復習	
<b>【テキストなど】</b> テキスト:「生理学」第2版、東洋療法学校協会監修、医歯薬出版 参考書:授業内で適宜紹介			
<b>【成績評価方法】</b> 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行なう。			
<b>【授業実施上の留意点】</b> 授業は講義形式にて行う。教科書を通読、理解する。板書を中心として時に補足プリントを配布する。プリントは当日のみの配布になる。欠席者分の確保の必要があれば、クラス自治で対応する事。復習が大切です。時間をかけて行うように。			

## 講義要綱

【授業科目名】病理学概論	【分野】専門基礎	【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】本科	【講師名】北爪 秀幸	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 病気の原因と機序および結果に関する基礎的な知識を学び、病態の分類や様々な疾患に対する病理学的な理解を深める。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 病態の定義と成り立ち・分類に関わる病理学用語を正しく理解し、またそれを臨床の場面等で使うことができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 病理学とは何か、あはき国試での位置づけ 2. 疾病についての基本的考え方、病因① 3. 病因② 4. 病因③ 5. 病因④ 6. 病因⑤ 7. 病因⑥ 8. 循環障害① 9. 循環障害② 10. 循環障害③ 11. 循環障害④ 12. 退行性病変① 13. 退行性病変② 14. 退行性病変③ 15. 試験解説および前期のまとめ		1. 進行性病変① 2. 進行性病変② 3. 進行性病変③ 4. 炎症① 5. 炎症② 6. 炎症③ 7. 腫瘍① 8. 腫瘍② 9. 腫瘍③ 10. 腫瘍④ 11. 免疫異常とアレルギー① 12. 免疫異常とアレルギー② 13. 先天性異常① 14. 先天性異常② 15. 試験解説および後期のまとめ	
【テキストなど】 テキスト:「病理学概論」東洋療法学校協会編(医道の日本社) その他:授業ではプリントを併用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行なう。			
【授業実施上の留意点】 なし			

## 講義要綱

【授業科目名】臨床医学総論 I		【分野】専門基礎	【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】本科	【講師名】坂口雅明	【授業コマ数】30	【授業時間数】60	【単位数】2
【一般目標:GIO】 臨床で遭遇する疾患の基本原理を理解し、適切な問診、診察、検査を行い、正しく病態を把握できるよう、医学的知識ならびに技能について習得する。				
【行動目標・到達目標:SBOs】 実際の診療の場において問診により患者の訴えを的確に聴取することができるように理解を深める。 実際の診療の場において身体の全身、局所の診察ができるように検査も含め知識を深める。				
【 授 業 計 画 】				
< 前 期 >		< 後 期 >		
1. 診察の概要(意義、注意、進め方、記録) 2. 問診について(患者像、主訴、現病歴) 3. 問診について (既往歴、家族歴、問診上の注意) 4. 身体の診察(視診、触診) 5. 身体の診察(打診、聴診) 6. 身体計測、バイタルサイン(体温・脈拍) 7. 全身の診察法(顔貌、歩行、体格) 8. 全身の診察法(栄養、精神状態) 9. 全身の診察法(皮膚粘膜、発声会話) 10. 全身の診察法(生命徴候、リンパ節) 11. 局所の診察法(頭部、顔面、頸部) 12. 局所の診察法(目、耳、鼻) 13. 局所の診察法(口、舌、歯、咽頭、喉頭) 14. まとめ 15. 試験解説および総復習		1. 局所の診察法(胸部、腹部) 2. 局所の診察法(背部) 3. 局所の診察法(直腸、肛門、骨盤内臓器) 4. 局所の診察法(上肢、爪) 5. 局所の診察法(下肢、筋肉、骨・関節) 6. 局所の診察法(知覚検査) 7. 局所の診察法(反射検査) 8. 局所の診察法(脳神経系検査) 9. 局所の診察法(運動機能検査) 10. 局所の診察法(不随意運動①) 11. 局所の診察法(不随意運動②) 12. 局所の診察法 13. その他の診察(スポーツ外傷、救急時) 14. その他の診察(妊産婦、乳幼児、老人) 15. 試験解説および総復習		
【テキスト】 テキスト:(社)東洋療法学校協会「臨床医学総論」(医歯薬出版) 参考書:授業で使用した参考書は授業内においてそのつど公表します。				
【成績評価方法】 普段の出席状況、授業態度、期末試験にて評価する。				
【授業実施上の留意点】 小テストを実施することも多く、欠かさず授業に参加する姿勢が必要となる。 授業中に配布するプリントを中心に授業を進める。				

## 講義要綱

【授業科目名】臨床医学各論Ⅰ	【分野】専門基礎	【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】本科	【講師名】谷 直樹	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 臨床において遭遇する可能性のある疾患について、適切な鑑別・評価が行え、あはき師として適切な判断と処置を行い、かつ患者に正しく適切な情報を提供し、施術者と患者がその行動理由を共有出来る。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 下記の疾患について概念・病態生理と主症状および特徴的検査法や治療について述べる事ができる。 下記の疾患についてあはき師として臨床上的判断を行うにあたりその留意すべき点を判断できる。 疾患に対する社会的背景等を理解し、疾病をもつものに対し、適切な言葉を選択して表現することができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 第1章 感染症 総論・細菌感染症	2. 第2章 消化器疾患 口腔・食道・胃・十二指腸疾患	1. 第2章 消化器疾患 胃・十二指腸疾患	2. 第2章 消化器疾患 腸疾患
2. 第1章 感染症 細菌感染症	3. 第2章 消化器疾患 腸疾患	3. 第2章 消化器疾患 腸疾患	4. 第2章 消化器疾患 腸疾患・腹膜疾患
3. 第1章 感染症 ウイルス感染症	4. 第2章 消化器疾患 腸疾患	4. 第2章 消化器疾患 腸疾患	5. 第3章 肝・胆・膵疾患 肝臓疾患①
4. 第1章 感染症 性感染症	5. 第3章 肝・胆・膵疾患 肝臓疾患②	5. 第3章 肝・胆・膵疾患 肝臓疾患③	6. 第3章 肝・胆・膵疾患 胆道疾患・膵臓疾患
5. 第9章 循環器疾患 心臓疾患①	6. 第3章 肝・胆・膵疾患 膵臓疾患	6. 第3章 肝・胆・膵疾患 膵臓疾患	7. 第4章 呼吸器疾患 感染性呼吸器疾患①
6. 第9章 循環器疾患 心臓疾患②	7. 第3章 肝・胆・膵疾患 膵臓疾患	7. 第3章 肝・胆・膵疾患 膵臓疾患	8. 第4章 呼吸器疾患 感染性呼吸器疾患②
7. 第9章 循環器疾患 冠動脈疾患	8. 第3章 肝・胆・膵疾患 膵臓疾患	8. 第3章 肝・胆・膵疾患 膵臓疾患	9. 第4章 呼吸器疾患 閉塞性呼吸器疾患
8. 第9章 循環器疾患 動脈疾患	9. 第3章 肝・胆・膵疾患 膵臓疾患	9. 第3章 肝・胆・膵疾患 膵臓疾患	10. 第4章 呼吸器疾患 拘束性・その他の呼吸器疾患
9. 第9章 循環器疾患 血圧異常	10. 第4章 呼吸器疾患 感染性呼吸器疾患①	10. 第4章 呼吸器疾患 感染性呼吸器疾患②	11. 第5章 腎・尿器疾患 原発性糸球体腎炎・腎不全
10. 第10章 血液造血器疾患 赤血球疾患①	11. 第4章 呼吸器疾患 感染性呼吸器疾患②	11. 第4章 呼吸器疾患 感染性呼吸器疾患②	12. 試験解説および総復習
11. 第10章 血液造血器疾患 赤血球疾患②	12. 第4章 呼吸器疾患 閉塞性呼吸器疾患	12. 第4章 呼吸器疾患 閉塞性呼吸器疾患	
12. 第10章 血液造血器疾患 白血球疾患	13. 第4章 呼吸器疾患 拘束性・その他の呼吸器疾患	13. 第4章 呼吸器疾患 拘束性・その他の呼吸器疾患	
13. 第10章 血液造血器疾患 リンパ網内系疾患	14. 第5章 腎・尿器疾患 原発性糸球体腎炎・腎不全	14. 第5章 腎・尿器疾患 原発性糸球体腎炎・腎不全	
14. 第10章 血液造血器疾患 出血性素因	15. 試験解説および総復習	15. 試験解説および総復習	
15. 試験解説および総復習			
【テキスト】 テキスト:「臨床医学各論 第2版」東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 参考書:授業で使用した参考書は授業内においてそのつど公表します。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 毎回、配布するプリントを中心に授業を進める。写真や図に関しては出来る限りスライドを使用する。 暗記と理解を要する科目であるため、授業の復習を行うことが必要である。			

## 講義要綱

【授業科目名】衛生学・公衆衛生学		【分野】専門基礎	【学年】第2学年	【学期】前・後期
【学科】本科	【講師名】間下智浩	【授業コマ数】30	【授業時間数】60	【単位数】2
【一般目標:GIO】 はり師、きゆう師、あん摩マッサージ指圧師という医療従事者になるにあたって、 疾病予防や健康増進についての知識や保健福祉の法制・倫理を理解する事を目標とする。				
【行動目標・到達目標:SBO】 人間生活に影響を及ぼすさまざまな関連要因を理解できることを目標とし、鍼灸あま指師として、 健康増進、疾病予防についてのアドバイスができることを目標とする。 保健統計により集団の健康問題を把握し、これからの時代の保健行動の方向性を学ぶ事を目標とする。				
【 授 業 計 画 】				
<前期>		<後期>		
1. オリエンテーション／衛生学・公衆衛生学の意義 2. 健康の概要・国際保健 3. 予防医学 4. 健康行政 5. 食品と栄養 6. 食品と疾病/食中毒① 7. 食中毒②/運動と健康 8. 環境、物理学的環境要因 9. 化学的環境要因 10. 生物学的環境要因/環境問題① 11. 環境問題② 12. 地球規模の環境問題 13. 労働環境と健康、労働災害対策 14. 業務上疾病とその対策 15. 試験総評と総復習		1. 精神保健の現状 2. 精神の健康と精神障害 3. 母子保健の意義 4. 主な母子保健政策 5. 生活習慣病の特徴と対策 6. 老人保健福祉対策 7. 感染症の意義と種類 8. 感染症の発生要因 9. 感染症予防の原則、免疫 10. 消毒法の一般 11. 消毒の種類① 12. 消毒の種類②/消毒の実際 13. 疫学概念と意義、疾病の頻度と測定 14. 主な保健統計と意義、指標 15. 試験総評と総復習		
【テキスト】 社団法人東洋療法学校協会「衛生学・公衆衛生学 第2版」(医歯薬出版株式会社) 使用教材:配布プリント				
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。				
【授業実施上の留意点】 プリントを使用し、授業を進めていく。 小テストを行うこともある。(事前告知有)				

## 講義要綱

【授業科目名】基礎学Ⅳ(鍼灸理論Ⅰ)	【分野】専門	【学年】2年	【学期】後期
【学科】本科	【講師名】坂口雅明	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 鍼灸の道具、施術の歴史の変遷を知る。鍼灸施術の有害事象と対処を理解する。 施術の意義、作用及び治効理論などについて学ぶ。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 鍼灸の道具、術式について説明できる。施術中に起こりうる有害事象に対し、予防、適切な対処ができるようになる。 鍼灸の治効機序について、生理学的な見地から説明できる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1章 概論、第2章 鍼の基礎知識</li> <li>2. 第3章 刺鍼の方式と術式</li> <li>3. 第4章 特殊鍼法、第5章 灸の基礎知識</li> <li>4. 第6章 灸術の種類、第7章 鍼灸の臨床応用①</li> <li>5. 第7章 鍼灸の臨床応用②</li> <li>6. 第8章 リスク管理 リスク管理の基本</li> <li>7. 鍼療法の過誤と副作用</li> <li>8. 灸療法の過誤と副作用、感染症対策</li> <li>9. 第9章 鍼灸治効の基礎 痛み感覚の受容と伝導①</li> <li>10. 痛み感覚の受容と伝導②、温度感覚の受容と伝導</li> <li>11. 触圧刺激の受容と伝達</li> <li>12. 筋の伸張刺激および筋の振動の受容と伝導</li> <li>13. 鍼灸刺激と反射①</li> <li>14. 鍼灸刺激と反射②</li> <li>15. 試験解説および総復習</li> </ol>	
【テキスト】 テキスト:「はりきゅう理論」東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 資料 :授業中の配布プリント			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験により評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 授業は講義形式にて行う。教科書、配布資料の通読を基本とする。授業内容を理解するにあたり、神経生理学的知識をはじめ基礎的な医学知識が必要となる為、知識に乏しい者はその都度該当教科の復習を要する。			



## 講義要綱

【授業科目名】臨床学Ⅲ(臨床基礎理論Ⅱ)		【分野】専門	【学年】2年	【学期】前期
【学科】本科	【講師名】松村天裕	【授業コマ数】45	【授業時間数】90	【単位数】3
【一般目標:GIO】 臨床の場で遭遇することの多い症候、疾患に対して適切な鑑別、評価、治療を行うことの出来る能力および患者に対する態度を身に付ける。				
【行動目標・到達目標:SBOs】 ・ 疾患等の鑑別に必要な知識、診察法や検査について理解する。 ・ 疾患等に対し必要な診察法を選択・実施し、その陽性所見や意義について考えることができる。 ・ 鍼灸臨床における一連の流れを実践し、患者に対する適切な態度を身に付ける。				
【 授 業 計 画 】				
< 前 期 >				
1. 授業ガイダンス	31. 症例検討①	32. 症例検討②	33. 身体診察復習・練習	34. 身体診察練習①
2. 膝関節痛について①	35. 身体診察練習②	36. 身体診察練習③	37. 身体診察練習④	38. 模擬実習①
3. 膝関節痛について②	39. 模擬実習②	40. 模擬実習まとめ	41. 実技テスト①	42. 実技テスト②
4. 膝関節痛について③	43. 実技テスト③	44. 実技試験の総評	45. 筆記試験解説	
5. 膝関節痛の問診				
6. 膝関節痛の診察法①				
7. 膝関節痛の診察法②				
8. 腰痛について①				
9. 腰痛について②				
10. 腰痛について③				
11. 腰痛の問診				
12. 腰痛の診察法①				
13. 腰痛の診察法②				
14. 坐骨神経痛(下肢神経痛)について①				
15. 坐骨神経痛(下肢神経痛)について②				
16. 坐骨神経痛(下肢神経痛)について③				
17. 坐骨神経痛(下肢神経痛)の問診				
18. 坐骨神経痛(下肢神経痛)の診察法①				
19. 坐骨神経痛(下肢神経痛)の診察法②				
20. 坐骨神経痛(下肢神経痛)の診察法③				
21. 頸・上肢痛について①				
22. 頸・上肢痛について②				
23. 頸・上肢痛の問診				
24. 頸・上肢痛の診察法①				
25. 頸・上肢痛の診察法②				
26. 肩関節痛について①				
27. 肩関節痛について②				
28. 肩関節痛の問診				
29. 肩関節痛の診察法①				
30. 肩関節痛の診察法②				
【テキスト】 テキスト:出端 昭男 著「鍼灸臨床 問診・診察ハンドブック」(医道の日本社) その他:適時、必要に応じてプリントを配付する。				
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記および実技試験において評価を行う。				
【授業実施上の留意点】 授業は講義と演習形式にて行う。実技室利用の際は白衣着用の事。 教科書の通読を基本とし、補足のためにプリントを使用し必要な医学用語・知識を解説する。 実技、演習時は患者を想定し適切な態度で行う。				

## 講義要綱

【授業科目名】臨床学IV(配穴処方学)	【分野】専門	【学年】2年	【学期】前期
【学科】本科	【講師名】横田篤広	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【一般目標:GIO】 臨床の場において弁証に対しての配穴処方を実践できる。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 弁証から配穴を導き出せる。 基本的な配穴の組合せを説明できる。 腧穴の性質および特性を理解できる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1 論治について 治則について 治方について 2 標本同治 標治穴、本治穴 3 循経穴(配穴法) 4 五俞穴、五行穴、六十八難 5 八脈交会穴 八会穴 6 補瀉法について 7 原絡・原合配穴法 8 俞原・募合配穴法 9 難経六十九難、難経七十五難、症例検討 10 疾患別治療 不眠 11 疾患別治療 咳嗽 12 疾患別治療 便秘・食欲不振 13 疾患別治療 むくみ・冷え 14 疾患別治療 頭痛 15 試験問題の解説および総復習			
【テキスト】 授業時の配布プリント			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 本講義は、1年次の「東洋医学概論」「経絡経穴概論」、2年次の「中医診察学・弁証学」の知識が必要となるので、知識が乏しいものは復習を行い、授業に臨んで欲しい。 配穴法は中医的鍼灸治療の根幹となるので積極的に取り組んで欲しい。			

## 講義要綱

【授業科目名】臨床学Ⅴ【中医診察学・弁証学】		【分野】専門		【学年】2年		【学期】前・後期	
【学科】本科		【講師名】横田篤広		【授業コマ数】30		【授業時間数】60	
【単位数】2							
【一般目標:GIO】 中医学の根底である弁証論治に基づいて、診断および治療方針を組み立てることを習得する。							
【行動目標・到達目標:SBOs】 臓腑と気血津液との相互関係を説明できる。 四診である望診、聞診、問診、切診それぞれの内容を把握し四診合参につなげることができる。 病因弁証、八綱弁証、気血津液弁証、臓腑弁証の特徴を理解でき、弁証論治につなげることができる。							
【 授 業 計 画 】							
< 前 期 >				< 後 期 >			
1	総論	中医学とは		1	総論	弁証とは	
2	総論	四診とは		2	各論	気血弁証①	
3	各論	問診①		3	各論	気血弁証②	
4	各論	問診②		4	各論	気血弁証③	
5	各論	問診③		5	各論	臓腑弁証①	
6	各論	問診④		6	各論	臓腑弁証②	
7	各論	望診①		7	各論	臓腑弁証③	
8	各論	望診②		8	各論	臓腑弁証④	
9	各論	望診③		9	各論	臓腑弁証⑤	
10	各論	望診④		10	各論	臓腑弁証⑥	
11	各論	切診①		11	各論	臓腑弁証⑦	
12	各論	切診②		12	各論	八綱弁証①	
13	各論	切診③		13	各論	八綱弁証②	
14	各論	切診④		14	各論	八綱弁証③	
15	試験問題の解説および総復習			15	試験問題の解説および総復習		
【テキスト】 テキスト:「新版 東洋医学概論」(医道の日本) 授業時の配布プリント							
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。							
【授業実施上の留意点】 講義の中で必要に応じて実技を行い理解を深める。 1年次の「東洋医学概論」の知識が必要となるので、知識が乏しいものは「東洋医学概論」の復習を行い、授業に臨む。							

## 講義要綱

【授業科目名】実習Ⅶ(低周波鍼通電療法)	【分野】専門	【学年】2年	【学期】前期
【学科】本科	【講師名】鈴木 稔子	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【一般目標:GIO】 鍼通電療法について理解し、目的となる組織に対して確実に実施できる能力および態度を身につける。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 鍼通電療法に関する知識を理解する。 目的となる筋等の組織を触診にて確認できる。 目的となる筋等の組織に対して確実に刺鍼・通電を行うことができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 鍼通電療法の基礎知識(前脛骨筋) 2. 筋に対する鍼通電(腓腹筋) 3. 筋に対する鍼通電(大腿四頭筋) 4. 筋に対する鍼通電(大腿筋膜張筋) 5. 筋に対する鍼通電(脊柱起立筋) 6. 筋に対する鍼通電(大殿筋) 7. 筋に対する鍼通電(中殿筋) 8. 筋に対する鍼通電(上腕三頭筋) 9. 筋に対する鍼通電(尺側手根屈筋) 10. 総復習・練習① 11. 総復習・練習② 12. 実技試験①と練習 13. 実技試験②と練習 14. 実技試験③と練習 15. 実技試験総評			
【テキスト】 テキスト:「鍼通電療法テクニック」大島宣雄、山口真二郎著 (医道の日本社) 参考書:授業で使用した参考書は授業内においてそのつど公表します。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たし、授業内で実施する課題をクリアした者に対し、実技試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 授業は実技室を使用し、白衣着用のこと。指サック持参。 実習を行う際には、患者を想定し、適切な態度で臨むこと。			

## 講義要綱

【授業科目名】実習Ⅷ(鍼灸実技Ⅰ中医学Ⅰ)	【分野】専門	【学年】2年	【学期】前期
【学科】本科	【講師名】横田篤広	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【一般目標:GIO】 中国鍼や様々な療法などの技能の習得およびその臨床への応用を習得する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 特殊療法の基礎知識(適応症、意義など)が理解できる。 中国鍼の持ち方や各部位の名称が理解できる。 中国鍼の刺入及び補瀉手技ができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1	ガイダンス 鍼の持ち方 自分の下肢へ刺鍼		
2	下肢への刺鍼		
3	上肢への刺鍼		
4	腰背部への刺鍼 補瀉法		
5	腹部への刺鍼		
6	胸部への刺鍼		
7	肩背部への刺鍼		
8	頸部への刺鍼		
9	頭部への刺鍼		
10	吸角		
11	灸頭鍼		
12	実技試験予行練習		
13	実技試験		
14	実技試験総評		
15	総復習		
【テキスト】 授業時の配布プリント			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の実技試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 それぞれの刺入方法や基礎知識をよく理解し、円滑におこなえるように繰り返し練習に励むこと。			

## 講義要綱

【授業科目名】実習Ⅸ(あん摩実技Ⅱ)	【分野】専門	【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】本科	【講師名】鈴木稔子	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 吉田流あん摩術に関する正しい技術と知識を習得し、臨床において患者に対し安全かつ確実に施術できる能力を身につける。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 吉田流あん摩術の基本手技の基礎的理解と体得を全身各部位に対して、安全かつ正しく行うことが出来る。 施術部位に関する基本的な解剖学的特徴を理解する。 施術者として好ましい身だしなみ、言葉遣い、生活態度を養う。			
【 授 業 計 画 】			
<前 期>		<後 期>	
1. 仰臥位(下肢)の施術①	1. 一時間施術の復習①	2. 仰臥位(下肢)の施術②	2. 一時間施術の復習②
2. 仰臥位(下肢)の施術②	3. 一時間施術の復習③	3. 伏臥位(下半身)の施術①	4. 一時間施術の復習④
3. 伏臥位(下半身)の施術①	4. 一時間施術の復習⑤	4. 伏臥位(下半身)の施術②	5. 一時間施術の復習⑥
4. 伏臥位(下半身)の施術②	6. 一時間施術の復習⑦	5. 伏臥位(下半身)の施術③	7. 一時間施術の復習⑧
5. 伏臥位(下半身)の施術③	8. 一時間施術の復習⑨	6. 伏臥位(上半身)の施術①	9. 一時間施術の復習⑩
6. 伏臥位(上半身)の施術①	11. 臨床実習前施術実技試験練習①	7. 伏臥位(上半身)の施術①	12. 臨床実習前施術実技試験練習②
7. 伏臥位(上半身)の施術①	13. 臨床実習前施術実技試験	8. 伏臥位(上半身)の施術①	14. 総評、臨床実習(地域交流マッサージ)事前練習①
8. 伏臥位(上半身)の施術①	14. 総評、臨床実習(地域交流マッサージ)事前練習②	9. 一時間施術の復習①	
9. 一時間施術の復習①		10. 一時間施術の復習②	
10. 一時間施術の復習②		11. 一時間施術の復習③	
11. 一時間施術の復習③		12. 実技試験①	
12. 実技試験①		13. 実技試験②	
13. 実技試験②		14. 実技試験③	
14. 実技試験③		15. 実技試験の総評	
15. 実技試験の総評			
【テキスト】 「吉田流あん摩術」(医道の日本社) (社)東洋療法学校協会「あんまマッサージ指圧実技」(医道の日本)教科書執筆小委員会			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の実技試験および臨床実習前施術実技試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 教科書および補助プリントを中心に進める。 技術向上、体得には練習が必要であることを説明する。患者役(相手)を思いやる態度で接する。 実習は白衣着用とし、髪型、爪など施術者としての品位を保つ様心掛ける。			

## 講義要綱

【授業科目名】実習Ⅹ(臨床基礎実技)	【分野】専門	【学年】2年	【学期】後期
【学科】本科	【講師名】鈴木、横田、殿村	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】			
患者に対する臨床実践を通して、臨床に携わる者としての態度・習慣、並びに治療法(現代医学的鍼灸治療、経絡治療、中医学)を理解し、実践できる。			
【行動目標・到達目標:SBOs】			
< 態度・習慣 > 自己の問題点を抽出し、解決することが出来る。また患者とのコミュニケーションをとり信頼関係を築くことが出来る。 < 情報収集 > 1) 医療面接所見をもとに、患者の抱える問題点に対する身体診察法を実践できる。 2) 四診法により、患者を東洋医学的観点から捉えることが出来る。 3) 患者の抱える問題点に対する治療の適否を判断し、治療計画を立案することが出来る。 < 治療へのアプローチ > 1) 治療に際し患者からインフォームド・コンセントを得ることが出来る。 2) 安全性、消毒・清潔操作に配慮し、治療することが出来る。 3) 治療効果を判定することが出来る。 4) 治療中のアクシデントに適切に対応することが出来る。 5) 治療計画に基づき、治療穴および治療部位を触知出来る。 6) 治療計画に基づいた、刺鍼・施灸することが出来る。 < 診療録作成 > 診療録を記載できる。			
【 授 業 計 画 】			
< 後 期 >			
1. 実習ガイダンス(実施内容の説明など) 2. 実習ガイダンス(現代医学的鍼灸治療における実習内容の説明) 3. 現代医学的鍼灸治療(初診のロールプレイング①) 4. 現代医学的鍼灸治療(初診のロールプレイング②) 5. 現代医学的鍼灸治療(初診模擬実習①:学生同士で施術者と患者役) 6. 現代医学的鍼灸治療(初診模擬実習②:施術者と患者役を交代) 7. 現代医学的鍼灸治療(初診模擬実習③:初診模擬実習①と同じ組合せで実施) 8. 現代医学的鍼灸治療(初診模擬実習④:初診模擬実習②と同じ組合せで実施) 9. 現代医学的鍼灸治療(初診:教員評価①) 10. 現代医学的鍼灸治療(初診:教員評価②) 11. 現代医学的鍼灸治療(初診模擬実習⑤:教員評価を基に学生同士で施術者と患者役、組む相手を変える) 12. 現代医学的鍼灸治療(初診模擬実習⑥:教員評価を基に学生同士で施術者と患者役を交代する) 13. 実習ガイダンス(中医学における実習内容の説明など) 14. 中医学(不眠 デモンストレーションと解説) 15. 中医学(咳嗽 デモンストレーションと解説) 16. 中医学(便秘・食欲不振 デモンストレーションと解説) 17. 中医学(むくみ・冷え デモンストレーションと解説) 18. 中医学(頭痛 デモンストレーションと解説) 19. 中医学(初診のロールプレイング①) 20. 中医学(初診のロールプレイング②) 21. 中医学 総括 22. 実習ガイダンス(経絡治療における実習内容の説明など) 23. 経絡治療(初診模擬実習①:学生同士で施術者と患者役) 24. 経絡治療(初診模擬実習②:交代する) 25. 経絡治療(初診模擬実習③:相手を変える) 26. 経絡治療(初診模擬実習④:交代する) 27. 経絡治療(再診模擬実習:③と④の組合せで、時間(35分)で交代) 28. 経絡治療 総括 29. 臨床実習前施術実技試験 30. 総括			
【テキスト】			
「問診・診察ハンドブック」(出端昭男 医道の日本社)、「中医鍼灸学総論」(浅川要 東京医療福祉専門学校)、 「日本鍼灸医学<経絡治療・基礎編>」(経絡治療学会編纂) 「東洋医学臨床論<東洋医学的な考え方>サブテキスト」東京医療福祉専門学校 配布資料:「臨床基礎実技実施要領」、「実習マニュアル」			
【成績評価方法】			
所定の出席時間を満たした者に対し、臨床実習前施術実技試験にて評価する。			
【授業実施上の留意点】			
ガイダンスおよびまとめは教室で、模擬実習は実習室、実習は臨床実習室で実施。 授業の実施の日程など予め掲示するので確認しておくこと。 実習においては白衣着用、筆記用具、角度計、打腱器、ピンセット、灸点ペンなどを忘れないこと。 テキスト・配布資料の内容を熟知し実習に支障のないように注意すること。			

## 講義要綱

【授業科目名】臨床実習Ⅰ	【分野】専門	【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】本科	【講師名】殿村、鈴木	【授業コマ数】23	【授業時間数】45
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 本実習(見学・施術)を通し医療人としての適切な倫理観と態度を身につけ、また安心・安全な”あはき”施術が出来るようにその基礎について学ぶ。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 1. 見学実習(鍼灸施術) 施術所で実際に行われている鍼灸施術を見て、患者とのコミュニケーションの取り方・面接所見及び身体診察法・施術計画・施術方法など臨床に必要な知識や技術の基礎を知ることができる。  2. 施術実習(地域交流マッサージ) ・ 受付業務など施術所内業務の流れを理解し実施できる。 ・ 患者とのコミュニケーションを取り信頼関係を築くことができる。 ・ 医療面接をもとに必要な身体診察法が実践できる。 ・ 施術の適否を判断し、施術計画を立案することができる。 ・ 施術に際し患者からインフォームド・コンセントを得ることができる。 ・ 安全性、消毒・清潔操作に配慮し、施術することができる。 ・ 施術効果を判定することができる。 ・ 施術中のアクシデントに適切に対応することができる。 ・ 施術計画に基づき、施術部位を触知し、また施術することができる。 ・ 診療録を記載することができる。 ・ 自己の問題点を抽出し、解決することができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前・後期 >		< 後 期 >	
1回目 鍼灸施術の見学①		1回目 あ・マ・指施術実習①	
2回目 鍼灸施術の見学②		2回目 あ・マ・指施術実習②	
3回目 鍼灸施術の見学③		3回目 あ・マ・指施術実習③	
4回目 鍼灸施術の見学④		4回目 あ・マ・指施術実習④	
5回目 鍼灸施術の見学⑤		5回目 あ・マ・指施術実習⑤	
6回目 鍼灸施術の見学⑥		6回目 あ・マ・指施術実習⑥	
7回目 鍼灸施術の見学⑦		7回目 あ・マ・指施術実習⑦	
		8回目 あ・マ・指施術実習⑧	
		9回目 あ・マ・指施術実習⑨	
		10回目 あ・マ・指施術実習⑩	
		11回目 あ・マ・指施術実習⑪	
		12回目 あ・マ・指施術実習⑫	
		13回目 あ・マ・指施術実習⑬	
		14回目 あ・マ・指施術実習⑭	
		15回目 あ・マ・指施術実習⑮	
		16回目 あ・マ・指施術実習⑯	
【テキスト】 プリント配布			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、見学実習は感想文を施術実習は実習レポートを提出しそれぞれを評価する。			
【授業実施上の留意点】 ・実習は白衣着用。ネームプレートを忘れないようにすること。 ・実習は8階の施術所で行われます。 ・見学実習は班により実施、日程など予め掲示するので確認しておくこと。 ・時間厳守 ・テキスト・配布資料の内容を熟知し実習に支障のないように注意すること。			



## 講義要綱

【授業科目名】臨床総合Ⅰ(鍼灸実技【経絡治療Ⅱ】)(分野) 専門		【学年】 2年	【学期】 前・後期
【学科】 本科	【講師名】 前期:橋本、後期:鈴木	【授業コマ数】 30	【授業時間数】 60
【一般目標:GIO】			
経絡治療の基本(1年次)を確認し、臨床実習などで実際に経絡治療の臨床が行えることを目標とする。特に、扱う頻度の高い疾患について病理を理解し、根拠をもった診断法と治療法を身につける。			
【行動目標・到達目標:SBO】			
経絡治療の基本を、①手順、②選経選穴、③補瀉法、④本治法、⑤標治法と段階を分け理解徹底する。特に選経においては経脈・臓腑病証の鑑別を行う。診察と証立ては、脈位脈差診によって迷いなく基本四証を導くことを徹底し、脈状を参考に「病理」を考慮した寒熱証を導くことを目標にする。これらは「病症に至るメカニズム」を理解した上で、「病理病証」を理解する必要があるため各回の冒頭に随時説明し、残りを実技実習と			
【 授 業 計 画 】			
<前期>		<後期>	
1: ガイダンス、手順の復習 2: 陰陽五行説による体質診察 治未病・体質別治療①(望聞問診と脈診) 3: 陰陽五行説による体質診察 治未病・体質別治療②(望聞問診と脈診) 4: 補瀉手技と治療実技① 「提按」、「開闔」、「迎隨」 5: 補瀉手技と治療実技② 「深淺」、「呼吸」、「捻転」 6: 補瀉手技と治療実技③ 「弾爪」、「揺動」、本治法・本治法補助一刺鍼20分 7: 単刺の治療 衛気、榮気(血)に対する補法、瀉的散鍼、補的散 8: 置鍼の治療① 刺鍼方向、鍼立、背部俞穴一刺鍼40分以内 9: 置鍼の治療② 背部俞穴一刺鍼30分以内 10: 置鍼の治療③ 背部俞穴一刺鍼30分以内 11: 病症に至るメカニズム① 肩こり①(問診の進め方) 12: 病症に至るメカニズム② 肩こり②(問診の進め方) 13: 治療実技(診察治療の時間配分) 刺鍼およびカルテ作成・60分以内 14: 実技試験  15: 実技試験総評/ 治療実技		1: 陰陽五行説による体質診察 肩こり(1年次復習) 2: 陰陽五行説による体質診察 肩こり(1年次復習) 3: 陰陽五行説による体質診察 五十肩①(選経) 4: 経絡と病証① 五十肩②(選経) 5: 経絡と病証② 腰痛① 6: 臓腑と病証 腰痛② 7: 高血圧① 8: 高血圧② 9: 冷え症① 10: 冷え症② 11: 病証に対する治療 12: 病証に対する治療 13: 実技試験 14: 総合実技①  15: 実技試験の総評/ 総合実技②	
【テキスト】			
『日本鍼灸医学』(経絡治療・基礎編)経絡治療学会編纂、『経絡経穴概論』等の経穴書 ※参考書として『日本鍼灸医学』(経絡治療・臨床編)の利用を勧める。			
【成績評価方法】			
所定の出席時間を満たし、各回の課題について評価を得た者に対し、学期末の実技試験によって評価を行う。			
【授業実施上の留意点】			
二人一組で、患者役と施術者役になって練習。順次、役割を交代する。 施術者役はカルテを記入し、その都度提出する。			

## 講義要綱

【授業科目名】臨床総合Ⅱ(鍼灸実技I現代治療学Ⅰ)		【分野】専門		【学年】2年	【学期】後期
【学科】本科	【講師名】鈴木 稔子	【授業コマ数】15	【授業時間数】60	【単位数】2	
【一般目標:GIO】 鍼通電療法について理解し、目的となる組織に対して確実に実施できる能力および態度を身につける。					
【行動目標・到達目標:SBOs】 鍼通電療法に関する知識を理解する。 目的となる筋等の組織を触診にて確認できる。 目的となる筋等の組織に対して確実に刺鍼・通電を行うことができる。					
【 授 業 計 画 】					
< 前 期 >			< 後 期 >		
			1. 膝痛について、大腿二頭筋 2. 膝痛について、半腱様筋 3. 腰痛・腰下肢痛について、腰方形筋 4. 腰痛・腰下肢痛について、梨状筋 5. 頸・肩こりについて、僧帽筋 6. 頸・肩こりについて、板状筋 7. 頸・肩こりについて、肩甲挙筋 8. 肩痛について、棘上筋・棘下筋 9. 肩痛について、大円筋 10. 肩痛について、小円筋 11. 総復習・練習 12. 実技試験①と練習 13. 実技試験②と練習 14. 実技試験③と練習 15. 実技試験総評		
【テキスト】 テキスト:「鍼通電療法テクニック」大島宣雄、山口真二郎著 (医道の日本社) 参考書:授業で使用した参考書は授業内においてそのつど公表します。					
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たし、授業内で実施する課題をクリアした者に対し、実技試験において評価を行う。					
【授業実施上の留意点】 授業は実技室を使用し、白衣着用のこと。指サック持参。 実習を行う際には、患者を想定し、適切な態度で臨むこと。					